昭島市産業振興計画（概要版）

つながる・ふれあう・めぐるみずみずしい暮らしをつくる産業振興

平成２９年３月

昭島市

昭島市産業振興計画について

1 背景と目的

平成19年度に初めて策定された昭島市産業振興計画は、策定から10年経過し、市内産業を取り巻く状況に変化

- 人口減少、急速な高齢化社会
- 経済や情報のグローバル化
- 経済情勢や政治情勢の社会不安

平成25年度から平成27年度にかけて躍動するあきしま元気プロジェクトを実施

- 産学官金検討委員会の設置
- 調査・分析・施策検討
- 事業承継、創業支援

成果・課題

見直し検討

産業振興計画策定委員会

・ヒアリング調査
・ワークショップ

昭島市産業振興計画改定

2 計画の位置づけと計画期間

第五次昭島市総合基本計画
平成23年度～平成32年度

昭島市産業振興計画
平成29年度～平成38年度

まち・ひと・しごと創生昭島市総合戦略
平成27年度～平成31年度

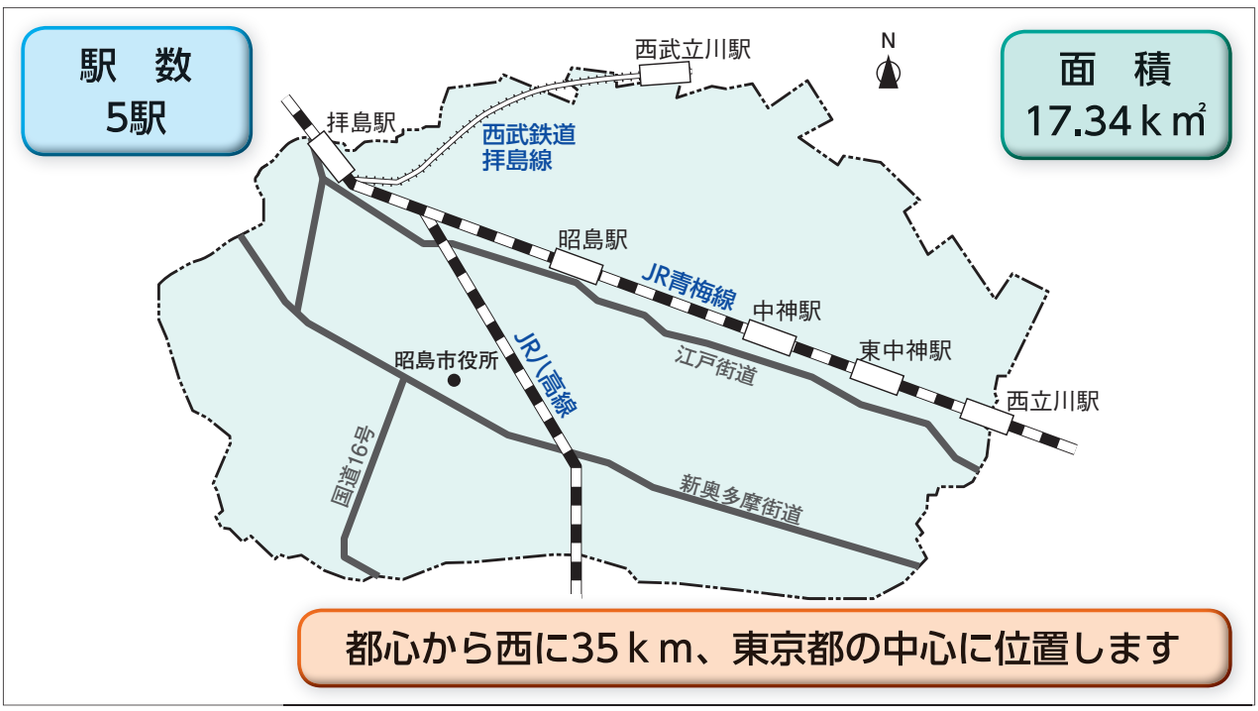
年　度	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38
第五次昭島市総合基本計画	検証				目標年次						
まち・ひと・しごと創生昭島市総合戦略				目標年次							
昭島市産業振興計画	策定	前期計画				計画の見直し	後期計画				目標年次

本計画の上位の計画は、「第五次昭島市総合基本計画（平成23年度～32年度）」であり、ここで掲げられている、まちづくりの基本理念「人間尊重」、「環境との共生」、市の目指すべき将来都市像「ともにつくる　未来につなぐ　元気都市あきしま　～人も元気　まちも元気　緑も元気～」は、本計画の上位の理念となります。

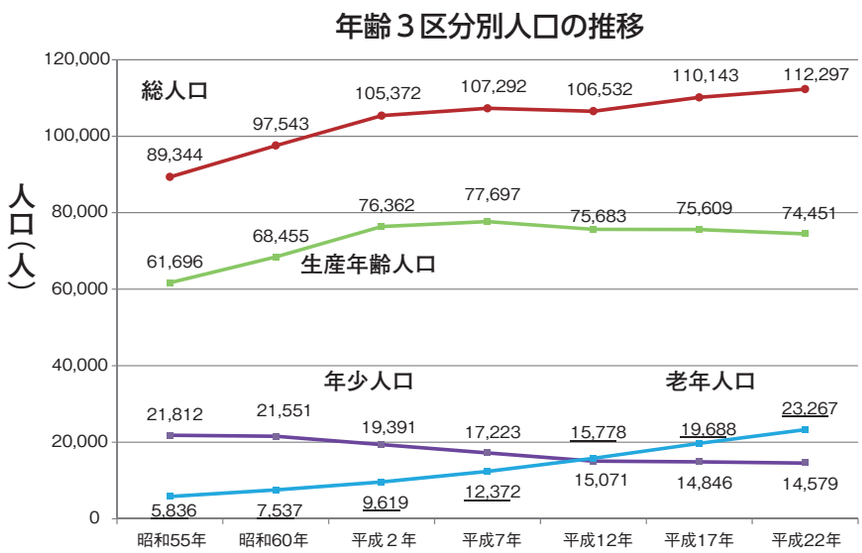
5年目（平成33年度）に計画の成果検証を行い、後半期の具体的な施策について検討、企画する機会をあらためて設けます。

昭島市の概況

地勢



人口



人口区分	人口数（人）
総人口	112,731
年少人口（0 ～ 14 歳）	14,191
生産年齢人口（15 ～ 64 歳）	70,079
老年人口（65 歳以上）	28,461

※住民基本台帳より作成
（平成 29 年 3 月 1 日現在）

【特徴】

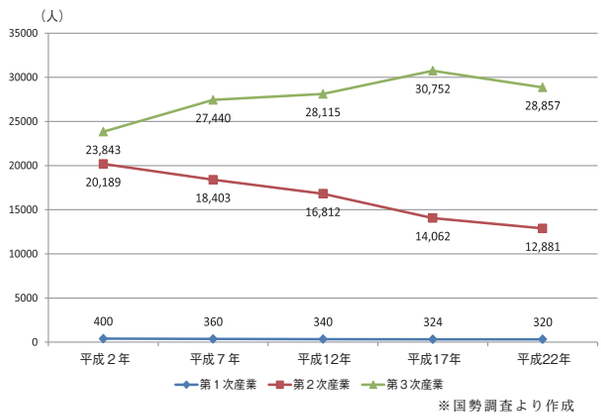
出生・死亡数の「自然増減」は、近年では高齢化を背景に死亡数が上昇しており、わずかながら「自然減」の状態が続いています。社会増減を示す転入・転出数は、概ね均衡していますが、この１０年間の転入数は減少傾向に転じており、年によっては「社会減」の状態が生じています。本市においては、自然増減、社会増減ともに顕著な増減を示すにはいたらないものの、近年では自然減・社会減に近づきつつあり、総人口は横ばいから減少局面へと移行しつつあります。

産業別従業者数

第1次産業(農業･林業･漁業)：320人
第2次産業(製造業･建設業等)：12,881人
第3次産業(小売業･サービス業等)：28,857人

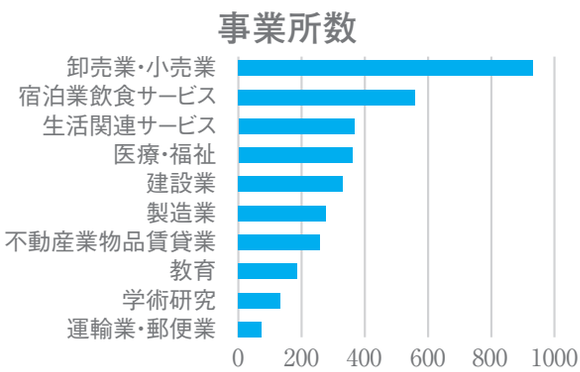
【特徴】

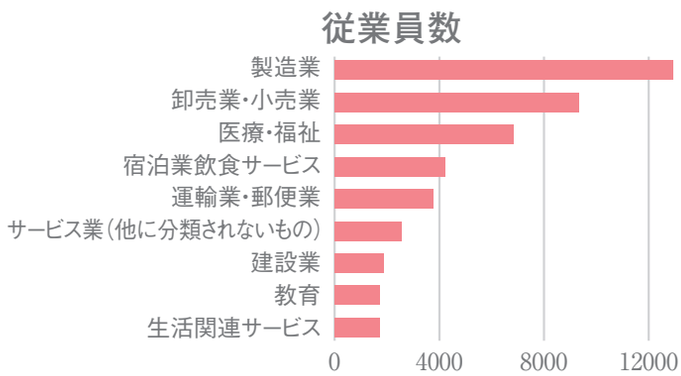
第２次産業従事者の割合が30.6%であり、東京都全体の17.5%より高くなっています。



※国勢調査より作成

産業別事業所数





事業所数		
1位	卸売業・小売業	24.5%
2位	宿泊業・飲食サービス業	14.7%
3位	生活関連サービス業・娯楽業	9.6%

従業員数		
1位	製造業	26.5%
2位	卸売業・小売業	19.1%
3位	医療・福祉	13.1%

※平成26年経済センサス基礎調査より作成

【特徴】

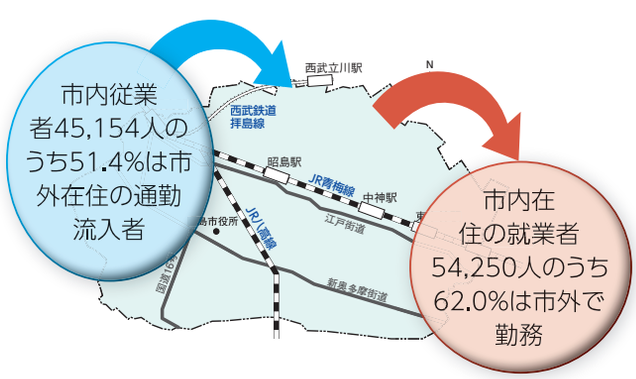
大規模な製造業や商業施設の一部が大きな雇用を生み出しています。また、事業所数では飲食店のような小さな商店、病院・福祉系の事業所が多く、昭島市の雇用を支えています。

就業者の状況

【特徴】

市内在住者の勤務先として多いのは東京都内・区部となっています。

一方、市内従業者のうち、約半数は市外からの通勤流入者であり、近隣では立川市や福生市からの流入が比較的多くなっています。



産業の課題と可能性

課　題

【工業】
・大学がないことは人材確保をする上で不利
・営業や管理部門の人材育成に手が届いていない
・職人や技術者の高齢化による技術承継
・市内企業との接点はほとんどない

【農業】
・PRに手が回っていない
・拝島ねぎ等の地域資源もあるが安定供給が難しい
・学校給食への食材供給には供給量が足りない
・後継者が明確でない、候補がいても継ぐかは不明

【商業】
・顧客は高齢者が中心であり、来店客数が減少
・後継者が不在、もしくは後継者に託せない
・事業を廃業し空いたままの店舗がある
・商店街エリアにおいて人の回遊が少ない
・量販店との仕入価格差があり、太刀打ちができない

【観光】
・来街者の増加及び街のPR
・産業観光の受け入れ先の新規開拓
・産業間連携や他団体等との連携強化
・ロケーションサービス事業等での他自治体との連携

可能性

【工業】
・新卒者採用について、地元雇用をするように努めている
・近隣の高校と繋がりを作り、人材確保に尽力している
・小学校等の工場見学の受け入れを行っている

【農業】
・小学校への食材供給、体験農業の受け入れを実施する農家もある
・「拝島ねぎ」や「あきしまさくら」等の地域資源がある
・農業に関するイベントは人気

【商業】
・事業商圏は思いのほか狭く、近隣市に新設される大型商業施設等の影響は特にない
・昭和の森にはスポーツ・レジャー施設が集積し市外からの集客力がある

【観光】
・ロケーションサービスやフォトコンテストはシティプロモーションに繋がっている
・他の産業から、観光まちづくり協会への期待が高い
・町あるきツアーは来街者の増加に寄与している

※産業振興計画策定にあたり、市内事業者や産業関係者にヒアリング調査を行いました。
　上記課題と可能性はヒアリング時に出たコメントをまとめたものです。

基本理念

①昭島のブランディングへの寄与

市民が「住み続けたい」と思い、他地域の人々が「訪れたい・住みたい」と思う昭島をつくることに寄与する産業振興を目指します。

②持続可能なまちづくりへの寄与

産業における世代交代、イノベーションによって、昭島らしさを残しながら、新しいものを創造する好循環を生み出し、持続可能なまちづくりに寄与する産業振興を目指します。

産業において、昭島らしさを受け継ぎながら、世代交代や革新の主体的な動きを、多様な主体が連携して生み出すことで、「住み続けたい」「訪れたい・住みたい」と思う地域内外の市民を増やし、持続可能なまちとなる基盤をつくります。

計画のコンセプト

つながる・ふれあう・めぐるみずみずしい暮らしをつくる産業振興

基本方針

①連携の推進

「あきしまの水」など、工業、商業、農業、観光による産業間連携で昭島ブランドを確立し、広域連携で広い視野の産業振興を推進します。

②健全な世代交代の促進

各産業の新陳代謝を目指し、事業承継などの世代交代の環境を整備するとともに、創業を支援し、新しい事業者を生み、育てる仕組みをつくります。

③市民に身近な産業づくりの推進

産業と都市の共存共栄を目指し、市民に対する各産業の認知度を高め、触れ合いを増やし、各産業に対しても市民との関係づくりの機会を増やします。

推進姿勢

①主体と時期を明確にし「本気」で取り組む

計画の内容について、誰がいつまでにやるのかを明確にして、目標を達成し、成果を生み出すことを目指します。

②「選択と集中」の計画とする

計画の対象となる領域や実施する内容を、広くすべてを網羅するような形ではなく、必要で確実に取り組めるものを選び、選択と集中の計画とします。

③「評価と見直し」を含めた計画とする

計画を立案するだけ、施策を実施するだけにせず、実施内容の評価を行い、時代や社会の変化に対応し、計画そのものを見直していくプロセスを最初から含んだ計画とします。

各産業の方向性と具体的施策

工　業
（製造業・建設業）

市民にとって身近な工業となることで昭島の“人財”をつなげる

①市民認知・市民参加の促進

住宅と工場の共存は今後も避けられないことから、対話や協働を行うことで、中核企業、中小企業の個別事業所単位に対する認知度を高め、市民と事業所との協働を増やします。

②人材の確保・育成

昭島市には日本を代表する中核企業や中小企業が存在し、それらの事業所が将来移転することを防ぎ、今後も市内の事業所が日本の工業力を牽引できる環境づくりが必要です。そのような産業育成について、本計画では人材確保、人材育成を通じて寄与します。

③人材の定着と活用

市内事業所の特徴として従業員は市内及び近隣西多摩エリアから通う人が多いことがあげられます。従業員に対する福利厚生サポートをすることで、企業・地域に対する人材の定着につなげます。

具体的施策

施策概要	具体的な内容
騒音対策、環境改善に関する設備投資への支援	工場設備の改善費や、ものづくり中小企業者が操業維持するための市内の移転費用の補助を行います。国や東京都の補助金活用の検討を行います。
技術・商品のPR	市内事業所の技術や商品のPRを市民向けに行います。現在は庁内市民ロビーにある市内産業展示コーナーにおいて商品等の紹介を行っています。この内容を続けながら、市民に広く周知できる方法を検討していきます。
昭島の工業力のみえる化	昭島市の工業の中核企業、中小企業のみえる化を図り、昭島の「工業力」を地域内外にPRします。関連団体と連携を図り、内容や形式等を議論しながら具現化します。
事業所による出前授業の体制確立	市内事業所による小中学校等への出前授業を支援します。実施可能な事業所と小中学校等とのマッチングを行います。
近隣の大学、高専、工業高校等と連携した人材確保支援	近隣の自治体や教育機関と就職について連携を図ります。学内の合同説明会に昭島市の事業所がまとまって参加するなど、人材確保に関する連携を支援します。
市内事業所に対する勉強会等の開催支援	市内事業所が交流も意図した勉強会等の開催を支援します。テーマは、特定の技術に関するものから人材確保、定着、活用等について実施します。
従業員向け福利厚生サービスの充実	市内事業所に勤務する従業員に対して、商店や飲食店の割引などのキャンペーンを実施します。
たま工業交流展の参加支援	ものづくり企業の優れた技術や製品など、企業同士のマッチング事業を行います。
就職面接会の開催	ハローワーク立川との共催により、近隣市も含む事業所と就職希望者のマッチングを実施します。

商　業

昭島らしさで魅力を向上し、新陳代謝でにぎわいを生み出す

①既存商店の魅力向上

人が多く集まる大型商業施設とのタイアップを図るなど、地域の個店の魅力を積極的に発信し、後継者にバトンを渡せる環境をつくります。

②昭島ブランドの開発・販売

「あきしまの水」「昭島ブランド・フードグランプリ」などを活用し、目玉の商品となる昭島ブランドを開発・販売します。地域全体でPR、活用することでシビックプライドの醸成や地域活性化につなげます。

③若者の創業支援

「従来の創業支援」+αで若者の創業者を呼び込みます。若者が創業することで、まちに活気をもたらし、新たな来街者を呼ぶきっかけとなります。若者を中心とした世代の新陳代謝を促し、市内空き店舗が新たな個店として生まれ変わる事で商店の新陳代謝を促します。

具体的施策

施策概要	具体的な内容
大型商業施設とのコラボレーション	市内の商業者が大型商業施設で物産展や「マルシェ」などの販売イベントを実施し、個店の認知度向上と売上増加につなげます。
市内事業所へのPRやキャンペーンの実施	市内の事業所に勤務する従業員に対して、商店や飲食店の割引などのキャンペーンを実施し、個店の認知度向上と売上増加につなげます。
「あきしまの水」ブランド推進	「あきしまの水」ブランドに係る特産品開発や観光商品開発につなげるためのシーズ・ニーズを収集し、関係団体や市内事業者と連携し、「あきしまの水」ブランドを推進・PRします。
空き店舗オーナーと創業者のマッチング	市内の商店街区域内の空き店舗で開業したい創業者を対象に、店舗賃借料と店舗改装費に対する補助事業を行います。
商店会等活動の支援・魅力向上	商店会などが共同で行うイベントや販売促進活動などの充実を図り、活性化を推進します。
特色ある個店づくり	既存の店舗に対する支援として、市内の魅力・特色ある個店の推薦を広く市民より募集し、審査及び表彰を行います。市内外に昭島の個店の魅力をPRするとともに、商店主のやる気醸成へとつなげます。
創業セミナーの実施	若者が創業することで、まちに活気をもたらし、新たな来街者を呼ぶきっかけとなります。若者を中心とした世代の新陳代謝を促すため、若者を含む創業希望者を呼び込み、若者の創業意欲向上及び昭島市での創業を促すための、セミナーを実施します。
まちゼミの実施	各店舗が講師となって、専門店ならではの知識、情報などを無料で受講できる「まちゼミ」を実施することにより、市内事業者の活性化を図ります。
昭島ブランド・フードグランプリの開催	昭島のブランド料理となりうる商品を市内事業者が出品し、各店舗が受賞を目指し競い合うイベントを開催します。また、イベントを通して昭島市のブランド料理を市内外にPRします。
まちコン等地域イベントの開催	独身男女の出会いのきっかけを含む新たな来街者誘致の要素を取り入れた、商店会を中心とする市内商業の活性化のための地域イベントを開催します。

農　業

市民との触れ合いを増やし、農家のやりがいと収入を向上することで持続可能な農業を目指す

①農家のやりがいと収入の向上

農家の取組みを市民や来街者に知ってもらう機会を提供したり、消費者との触れ合いや、農家の努力が評価されることによる、“やりがい”を向上していく。
6次産業化や市内事業者等による野菜の消費により、収入を確保するとともに、限られた農地面積で最大限の収益を上げるため、新技術や施設栽培の導入、農業と加工などの組み合わせによる経営の多角化を図り、収益性を向上させていく。
農地の保全や相続対策をはじめ農家の経営をサポートする体制を作ることにより、農業従事への不安を軽減していく。

②市民が「農」と触れ合う機会の創出

市民が「農」に触れることで、昭島の農業に対する関心と認知度を向上させると共に、実際に「農」に体験・参加することによる、食の安全や農業の大切さを知る機会を創出する。

具体的施策

施策概要	具体的な内容
市民が農業に触れ合う機会の創出	「親子水田体験教室」などの農業体験や援農ボランティア体験など、市民が農業に触れるイベントを企画運営することで、農業に対する関心を高め、理解を深めます。
農家の経営指導をサポート	農地の法律関係、農地保全、生産緑地制度、農業技術指導、農業経営への融資について、市や東京都、農業協同組合がそれぞれの専門性を活かしサポートします。また、認定農業者についても農業経営改善計画に沿った5年間の経営サポートを関連団体が協力して行います。
直売所マップの作成	昭島市内外に昭島の農業を知ってもらうきっかけとするとともに、観光資源としての農業を活用するためのツールとします。
学校給食での地場野菜の使用	学校給食における地場野菜の使用率を高め、食育につなげます。
市内飲食店や食品加工会社での地場野菜の活用促進	商業者、農業協同組合の連携で、地元野菜の活用の機会を増やし、販路拡大につなげます。
大型商業施設とのコラボレーション	大型商業施設において、昭島産の地場農産物の販売会を実施し、地域内外へのPRを行います。現在実施している「昭和の森冬祭り」のような取り組みを維持、拡大していきます。
認定農業者支援	効率的かつ安定的な農業経営を目指す認定農業者に対する農業用器具や資材の購入等の支援のほか、東京都の各種補助事業を活用し、経営改善のために必要な施設整備等を支援し、収益性の向上及び経営の安定化を図ります。
農業特産品共進会	市内の新鮮で安全な農畜産物や加工品の展示・販売を通じて食卓に直結する都市農業をアピールします。

観　光

連携のハブとして、昭島のブランディングの中核を担う

①観光資源の開発と活用

昭島市における観光スタイルは着地型観光が最適といえます。産業観光をはじめ近隣市ではできない体験を昭島市でできることがまさに昭島市のブランドであるといえます。産業観光をはじめ、農業資源も活用の対象であり、市内大型商業施設に来店した来街者に向けた体験イベントや簡易ツアーなどを実施します。

②産業間連系と広域連携

「農業×製造業」や「製造業×商業」などさまざまな産業間連携が考えられますが、観光の観点からコラボレーションをしかけていくことが重要であり、産業間連携から新しいお土産や「あきしまの水」ブランドに係る商品などを開発します。また、ロケーションサービスや、町あるきイベントにおける近隣市との連携による魅力の増加を目指します。

③シティプロモーションの推進

フォトコンテストやロケーションサービス等を通じてまちの魅力を発信します。外部にPRを行う取組を実施することによって、今後の来街者増加、定住促進につなげます。

具体的施策

施策概要	具体的な内容
市内製造業の見学受け入れ体制の充実	町あるきの一環で、見学可能な市内製造業の工場や研究所の拡充を目指します。
昭島の工業力のみえる化	昭島市の工業の中核企業、中小企業のみえる化を図り、昭島の「工業力」を地域内外にPRします。関連団体と連携を図り、内容や形式等を議論しながら具現化します。
農ウォークなど体験イベントの実施	町あるきイベントの一環で、農家を見学し、都市農業の実態について知り、昼食等で実際に食べる体験をすることで、昭島市の農業を知る機会を醸成します。
観光資源の掘り起し	新たな観光資源を掘り起こします。また、さらなる広域連携が可能かどうかも検討していきます。
「あきしまの水」ブランド推進	「あきしまの水」ブランドに係る特産品開発や観光商品開発につなげるためのシーズ・ニーズを収集し、関係団体や市内事業者と連携し、「あきしまの水」ブランドを推進・PRしていきます。
シティプロモーション施策の充実	ロケーションサービス、フォトコンテストなど既存事業を含め、発信の強化を行います。また旧拝島第四小学校の活用を検討していきます。
観光まちづくり協会との連携・支援	観光活動やまちづくりの充実を図り、広報活動、イベント、観光案内など市内外へ昭島市の魅力を発信するため、観光まちづくり協会への連携・支援を行います。
郷土芸能まつりの開催	昭島市の伝統文化を集積した郷土芸能まつりを通じ、昭島市の魅力を市内外に発信し人の流れをつくります。
昭島観光案内所の総合拠点化	東京都認証による公式の「新東京案内所」として、市域全体の案内機能を有するため多言語対応、提供サービスの多様化を含めた観光情報の発信を行います。

計画の推進について

計画の主体

計画推進の主体は、それぞれの施策によって、当然変わりますが、本計画に掲載されたものは、市が進捗の確認または進行管理について責任をもって実施していきます。

ただし、地域内には各分野の振興を図る支援機関も存在することから、各団体が実施する施策やスキームと連携しながら市内・地域内の産業振興をより効果的・効率的に推進していきます。

評価と見直し

	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	9年目	10年目
年　度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度	平成35年度	平成36年度	平成37年度	平成38年度
昭島市産業振興計画	前期計画				計画の見直し	後期計画				
全　体					これまでの成果の検証					
工　業	・工業力のみえる化に向けた協議開始		・騒音対策、環境改善支援に関する今後の施策を検討	・事業所による出前事業の体制確立・従業員向け福利厚生サービスの充実化	・工業力の見える化策の具現化					
商　業	・まちゼミの実施 ・特色ある個店づくり施策の企画 ・「あきしまの水」のブランド化に向けた具体的な検討開始	・特色ある個店づくり施策の実施 ・まちコン等地域イベントの開催	・空き店舗オーナーと創業者のマッチング施策の今後の方向性を検討	・市内事業者へのPRやキャンペーンの実施		**後期計画施策実行** ・前期計画の成果検証を踏まえて継続か、修正目標の設定が必要か検討。 ・継続する場合の実施スケジュールの設定。 ・目標未達成の計画について修正目標の設定。				
農　業	・直売所マップの作成	・市内飲食店や食品加工会社での地場野菜の活用促進方針決定	・市内飲食店や食品加工会社での地場野菜の活用促進施策の実施							
観　光	・工業力のみえる化に向けた協議開始 ・「あきしまの水」のブランド化に向けた具体的な検討開始		・歴史的な観光資源の掘り起こし		・市内製造業の見学受け入れ事業所が現在の2倍実現 ・工業力の見える化策の具現化					

前期計画の最終年である平成33年度に、前期計画の施策の成果や効果の検証を行います。毎年実施するような施策については、継続か中止か、継続するにしても目標をどう設定するのか、検討します。前期計画において、「設立」「実現」そのものを成果指標にしているものについては、その後の成果指標について設定します。平成33年度に何らかの会議体を市が設置し、評価と見直し、後期計画の策定を実施します。

AKISHIMA

Thanks to you

深層地下水100%水道水のまち・昭島